

講演会「8・6水害から30年、改めて備えについて考える」を開催**～30年目の節目に8・6水害を振り返り、災害への備えの重要性を考える～**

一般社団法人日本損害保険協会九州支部鹿児島損保会では、株式会社南日本新聞社とともに、1993年8月に鹿児島市を襲った大雨による土砂災害等により、多くの犠牲者を出した8・6水害の教訓を忘れず、今に伝えるため、8月2日（水）、鹿児島市において講演会「8・6水害から30年、改めて備えについて考える」を開催し、225名もの方にご参加いただきました。

開会に際し、主催者を代表し、日本損害保険協会 新納 啓介 会長（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 代表取締役社長）から、「8・6水害の教訓を再認識いただき、一人一人の防災意識を高めていただくことで、将来災害が発生した際に、ご自身やご家族の命・財産を守ることにつなげていただければと考えている。」と挨拶があり、引き続き、ご来賓の 塩田 康一 鹿児島県知事から「本講演会が開催されることは大変意義深い。県として防災対策については、自助・共助・公助を基本として、県民の皆様や市町村、県および防災関係機関がそれぞれの役割を果たし、相互に連携し行うことが重要と考えている。本講演会が県民の皆様の防災意識の向上に資するものとなることを祈念する。」とのご挨拶をいただきました。

基調講演では、南日本新聞社 平川 順一郎 編集局長から「新聞で振り返る8・6水害」をテーマに、鹿児島大学 地頭菌 隆 教授から「8・6水害から30年～土砂災害に備えよう」をテーマにご講演いただきました。

最後に、南日本新聞社 木脇 良知 専務取締役から、「県が、いざというときの的確、迅速な情報を得られるよう、より良い行動・判断力を身に着けられるよう、できるだけ多くの情報を提供したいと考えている。」と閉会の挨拶がありました。

参加者からは自然災害のおそろしさや平時からの食料備蓄や防災マップの確認といった備えの大切さに関する声が寄せられました。

また、会場後方に設置した8・6水害の被害の様子を振り返るパネルには多くの方が足を止めていました。

鹿児島損保会では、今後も行政や関係団体と連携し、自然災害リスクを的確に認識いただけるよう、防災に関する正しい知識の普及・啓発活動を行ってまいります。

講演会「8・6水害から30年、改めて備えについて考える」 式次第

- ・ 日時／2023年8月2日（水）13:30～15:30
- ・ 場所／鹿児島サンロイヤルホテル2階 太陽

- 開会挨拶 新納 啓介 日本損害保険協会 会長
（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 代表取締役社長）
- 来賓挨拶 塩田 康一 鹿児島県知事
- 講演①「新聞で振り返る8・6水害」平川 順一郎 南日本新聞社 編集局長
- 講演②「8・6水害から30年～土砂災害に備えよう」地頭菌 隆 鹿児島大学教授
- 閉会挨拶 木脇 良知 南日本新聞社 専務取締役



新納会長による開会挨拶



塩田県知事による来賓挨拶



平川編集局長による講演



地頭菌教授による講演



木脇専務取締役による閉会挨拶



講演①の様子



講演②の様子



会場の様子



パネル展示